

# 景気動向調査

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

## 1 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

## 2 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

## 3 調査期間

平成26年8月1日(金)~15日(金)

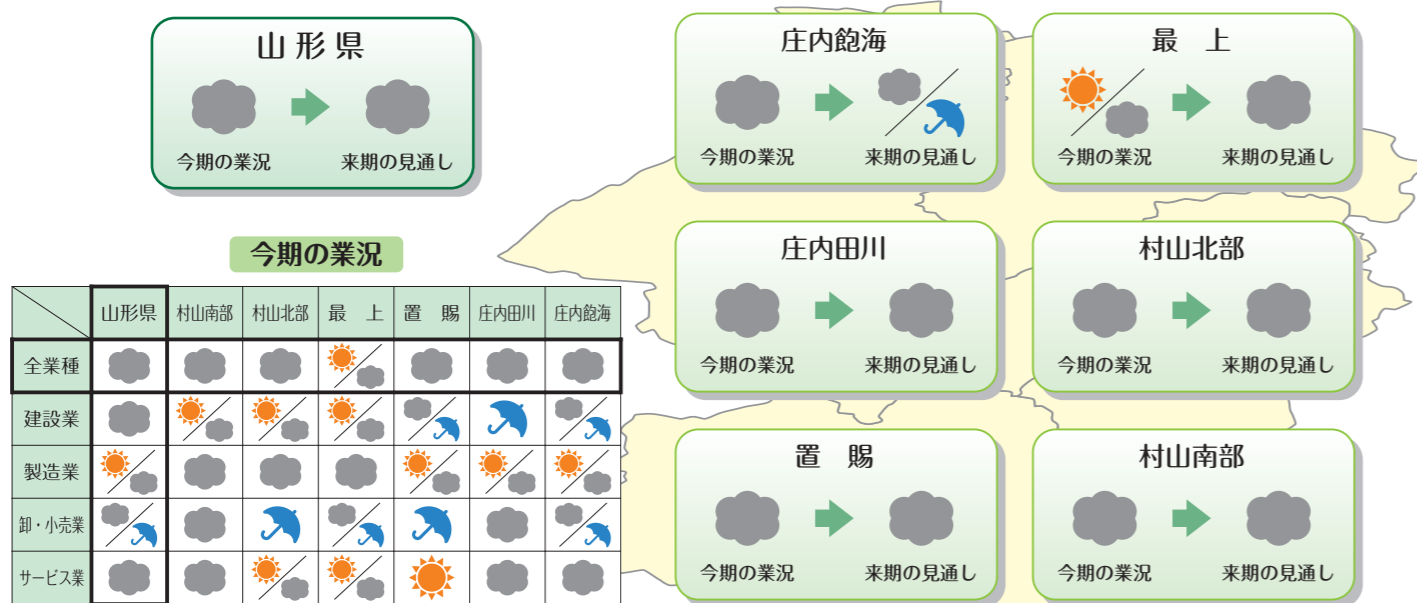
## 4 サンプル概要

アンケート対象企業 山形720社、秋田652社  
有効回答数 山形454社、秋田426社  
回答率 山形63.1%、秋田65.3%

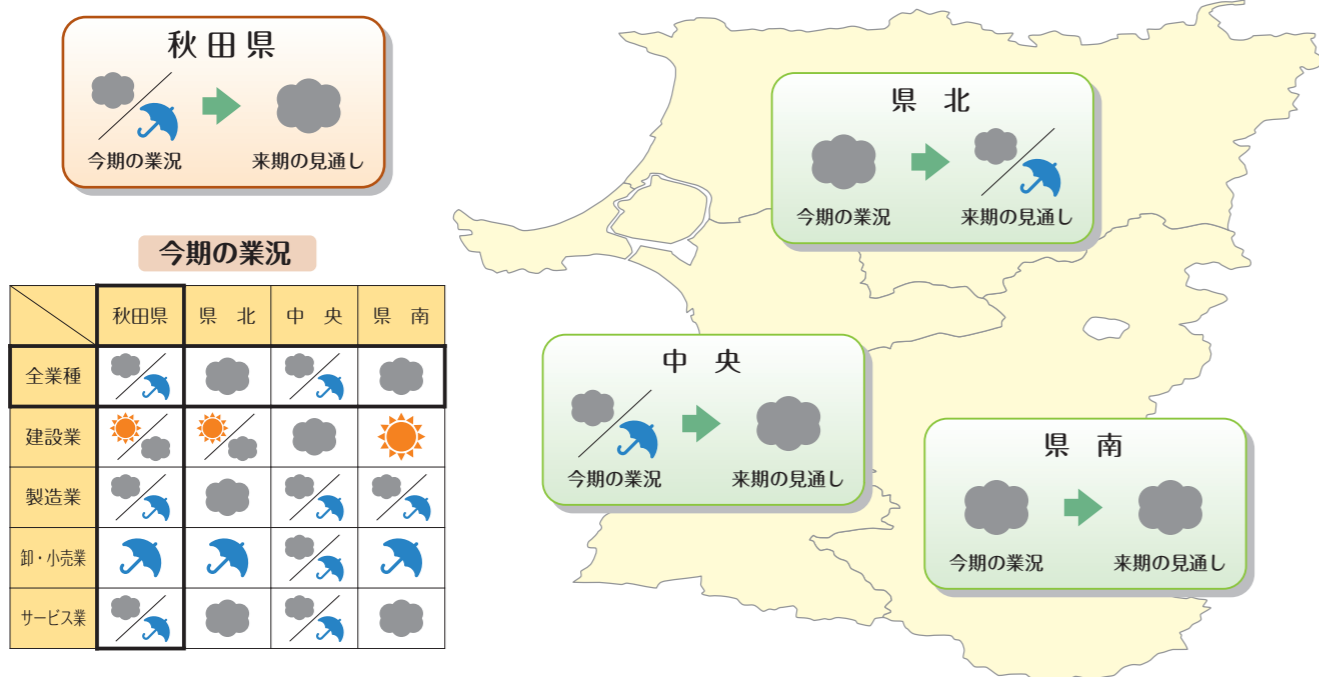
特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI $\geq$ 30	30>DI $\geq$ 10	10>DI $\geq$ 10	10>DI $\geq$ 30	30>DI

## 景気天気図

第40回「山形県内企業の景気動向調査」



第13回「秋田県内企業の景気動向調査」

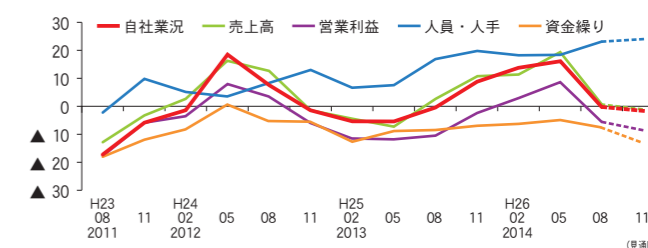


## ▶ 自社業況の動向

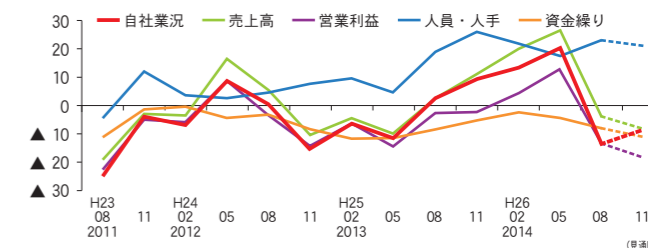
山形県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲0.2(前回調査比16.5ポイント下落)と大幅に悪化し、4期ぶりにマイナスに転じた。「各種DI値(前年同期比)」で見ると、「人員・人手」は23.1と不足感が高まっているが、その他の項目はいずれも悪化し、特に「売上高」と「営業利益」の悪化幅が大きくなっている。この背景としては、消費増税前の駆け込み需要の反動減、増税に伴う消費低迷、さらに円安に伴う原材料の高騰等が挙げられる。

秋田県の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲13.9(前回調査比34.0ポイント下落)と大幅に悪化し、5期ぶりにマイナスに転じた。「各種DI値(前年同期比)」をみると、前述の山形県同様の傾向を示しており、同様の背景に伴うものと考えられる。

図表1 山形「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表2 秋田「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

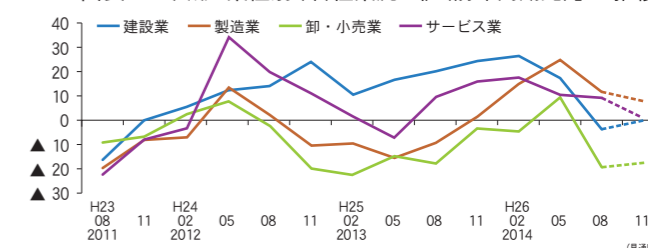


## ▶ 業種別の動向

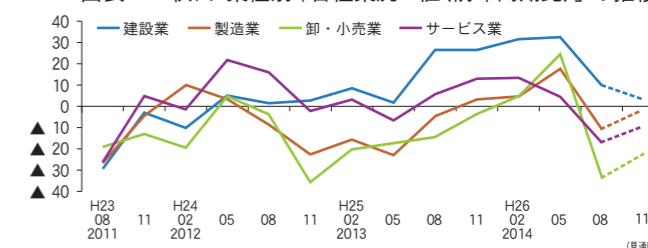
山形県の業況(前年同期比)を業種別にみると、すべての業種で悪化した。中でも建設業と卸・小売業の悪化幅が大きく、建設業では3年ぶりにDI値がマイナスに転じた。要因として、建設業では資材の高騰や人手不足に加え、公共工事の発注が一服していることや、卸・小売業では消費低迷の影響などが考えられる。

秋田県の業況(前年同期比)を業種別にみると、すべての業種において20.0ポイント以上の大幅な悪化となった。中でも卸・小売業のDI値は、平成23年8月の調査開始以来、既往最低の平成24年11月調査と同水準となった。要因としては、消費低迷の影響などが考えられる。

図表3 山形・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表4 秋田・業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

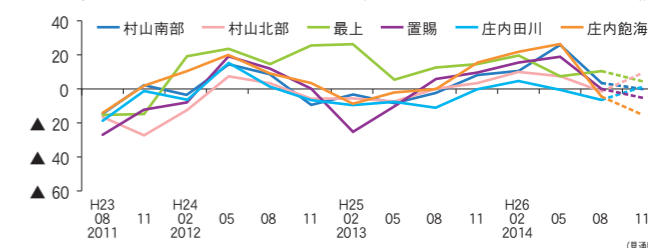


## ▶ 地域別の動向

山形県の業況(前年同期比)を地域別にみると、最上が若干回復したものの、その他の5地域で悪化した。中でも、村山南部、置賜、庄内飽海の悪化幅が大きい。また、前回調査での庄内田川に続き、今回は村山北部と庄内飽海でDI値がマイナスに転じた。

秋田県の業況(前年同期比)を地域別にみると、すべての地域で30ポイント前後ないしそれ以上の大幅な悪化となり、いずれの地域でもDI値がマイナスに転じた。

図表5 山形・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表6 秋田・地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移

